

(様式1)

校 種	小 中	学校番号	6 2	学校名	宇都宮市立上河内中央小学校
-----	-----	------	-----	-----	---------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、21世紀社会の担い手として、「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2) 具体目標（具体的な児童像）

- ・よく考え、学ぶ子ども（かしこく）
- ・自分をみつめ、つくせる子ども（やさしく）
- ・明るく、たくましい子ども（たくましく）

2 学校経営の理念

「地域に愛され信頼される学校」を目指し、

- ・児童にとっては、毎日の活動を楽しみにし、「できる」「分かる」喜びが感じられ、自他を大切にする学校、
 - ・保護者にとっては、安心して子供を通わせ、家庭の役割を自覚して共に力を合わせることできる学校、
 - ・地域住民にとっては、学校の取組を理解し目標を共有しながら積極的に連携・協働できる学校、
 - ・教職員にとっては、教育への情熱をもってチームとして組織的に取り組み、ワークライフバランスを図りながら指導力向上に努める学校、
- となるよう経営を行う。

3 学校経営の方針

- ・児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、認め合い、学び合い、高め合う集団づくりに努める。
- ・児童が主体的に学ぶ喜びを感じられるよう不断の授業改善を行うとともに、学習習慣の形成を図る。
- ・豊かな心や創造性とともに、自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- ・教職員がチームの一員として連携協働しながら指導力を向上させるとともに、業務改善や勤務時間を意識した働き方を進める。
- ・組織的な校内体制を整備し、家庭や関係機関との連携を図り、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- ・「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

「上河内地域学校園教育ビジョン」

かしこくたくましいゆずっ子の育成

—基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう—

4 教育課程編成の方針

法令等に基づくとともに、「栃木県教育振興基本計画 2025」、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」など県・市の方針に加え本校児童・地域の実情や地域協議会の意見を踏まえて教育課程を編成する。

さらに、教科横断的な視点に立った資質・能力育成のため、各教科等の学習活動や扱う学習対象の共通点を明らかにし、単元等を関連付けて配列するよう努める。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

○校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上

- ・1人1台端末の日常的・効果的な活用を通して、自律した情報の使い手を育む教育の充実
- ・学級や学校の生活上の課題を見いだし、課題を解決するために話し合い、多様な意見のよさを生かして合意形成を図る主権者教育の推進（主に特別活動）
- ・地域の教育資源等を積極的に活用し、地域とともにある学校づくりの推進
- ・業務の効率化と勤務時間を意識し、児童と向き合う時間の確保と、心身ともに健康な状態で職務の遂行

（2）学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
（実生活への活用を意識した上央小授業スタンダードの授業実践）

○基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、コミュニケーション能力の向上

（3）児童生徒指導

- ・進んで挨拶し、時と場に応じた言葉づかいを意識できる児童の育成

○自己有用感を育て、互いに認め合う集団づくりの推進

○規則を守り、節度ある生活ができる児童の育成

- ・いじめ・不登校等に対する組織的な校内体制整備，家庭や関係機関との連携により，多様な児童の状況に応じた指導・支援の充実

（4）健康（体力・保健・食育・安全）

- ・コロナ・リカバリープランとして，教育活動全体を通して，運動の機会を創出する。

○柔軟性を高め，基礎体力を向上させる。

- ・健康を管理する能力の育成と，正しい姿勢の指導の徹底
- ・給食の時間や教科等における食に関する指導と食文化の学習の充実
- ・登下校の安全指導と災害を想定した避難訓練の実施

6 学習指導，児童生徒指導，健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

（1）学習指導に関する取り組み

- ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
（実生活への活用を意識した上央小授業スタンダードの授業実践）
 - ★□・上央小スタンダードによる授業実践（通年）
 - ・実生活に関わる教材の提示から学習課題の設定の工夫（はっきり）
 - ★○・学び合い活動の充実と一人一台端末の活用の工夫（じっくり）
 - ・できる喜びや次への意欲をもたせるためのまとめや振り返り活動の充実（すっきり）
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と，コミュニケーション能力の向上
 - ・上央小漢字・算数検定の実施（通年）
 - ・算数科における習熟度別学習や少人数指導の実施
 - ★・朝読書の充実（毎週木曜日）
 - ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のための朝学習の時間の活用
 - ・「学習のきまり」の共通理解と実践による望ましい集団作り
 - ・家庭学習指導の強化週間の実施（年2回）
 - ・各種学力調査などの分析を基にした授業改善
 - ・協働的な課題解決や意見交流活動の重視
 - ★□・一人一台端末を活用した学び合い活動の充実
 - ・学級活動や児童会活動等における主権者教育の推進

（2）児童指導に関する取り組み

- ① 進んであいさつする児童の育成
 - ・児童会があいさつ当番等を選出し，計画的にあいさつ運動を実施する。
 - ・PTA，地域諸団体と連携・協力し，地域協議会挨拶運動を展開する。（毎月・登校指導時）
 - ・校内の廊下での教職員や来校者に対するあいさつを，教員が中心となり推進する。
 - ・あいさつ・言葉遣い名人表彰を設定し，あいさつや望ましい言葉遣いを推進していく。（年3回）
- ② 児童のよさを認め励ます教育の推進による自信や自己有用感の醸成
 - （1）児童同士および先生からの誉め言葉について
 - 一人一人の存在感を高め，やり遂げた喜びを味わわせる学級経営を工夫する。（通年）
 - ★ 日常的に教師が児童を称賛したり，励ましたりする言葉掛けを積極的に行う。（通年）
 - 個人懇談や希望懇談を実施し，保護者との連携を図る。（4月・7月・12月）
 - ・児童の記録（日々の様子の活用）を作成し継続的に活用する。（通年）
 - ★ 「誉め言葉のシャワー」など，全員が級友から誉められるような取組を実施する。
 - （2）いじめを許さない規範意識や正義感，思いやりの心の育成について
 - ・「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」等を活用し

，基本的な生活習慣や生活態度の育成を図る。（通年）

- ★ 基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守って行動する児童生徒の育成（地域学校園）
- いじめゼロ強調月間における、スローガンの掲示、リボンシールの着用、チェックシートの活用やポスターの作製（掲示）等がいじめゼロ運動を啓発していく。（5月・10月）
- 児童会主催のいじめゼロ集会を開催し、いじめの根絶を図る。（9月）
- ・ 長期休業中の過ごし方の約束を児童用と保護者用通知にまとめ、遵守すべきルールやマナーを再確認して配付し、生活指導を実施する。（長期休業前）
- ・ 朝会、集会、学校行事などの集団活動を通して基本的行動様式を定着化させる。（通年）
- ・ 生活当番は、生活目標を設定し、日常生活指導や安全面の指導を重点化して、指導する。（通年）
- いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見に努めていく。
- ・ いじめゼロを目指した定期的な調査を実施する。
（5月・6月・10月・11月《教育相談週間》）
- 校内研修等で、いじめ・不登校対策についての研修や児童指導事例研修会などを開き、教職員の研鑽を兼ね、指導方針の共通理解を図る。
- 問題行動等が生じた時は、迅速な全校指導体制をとり、組織的に対応策を講じる。
（いじめ、不登校、その他児童指導対策委員会・ケース会議）
- ・ 特別の教科道德の授業を授業参観等の際に年1回以上公開する。
- (3) スマホ使用のルールの徹底など情報活用能力の育成
- ・ スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言の啓発、スマホ・ケータイの弊害・危険性を周知させ、正しい使い方とマナーを発信していく。（通年、リーフレット配付時、学級活動、特別の教科道德等、メールによる保護者への啓発）
- ★ 親子講座等を実施し、児童や保護者に向けて、情報活用能力を育成する。（学年部会等）

③ 不登校児童等，多様な児童に対する保護者や関係機関と連携した組織的対応の充実

- 「欠席状況共有シート」を活用し、不登校の兆しを見逃さずに初期対応を確実に行う。
（通年）
- 「不登校対策の手引書（H31改訂版）」を活用しながら、互いを尊重し合う温かな人間関係を築くなど、新たな不登校を生まない集団作りに努めていく。
- 「別室登校支援について」を活用した別室登校支援に取り組むなど、全教職員による組織的対応を充実させていく。
- Q-U調査を実施し、児童個人や学級の理解および具体的な対策の策定に役立てる。（5月・11月）
- 教育相談週間を設置し、児童一人一人と積極的な教育相談を推進する。（6月・11月）
- ・ SCと連携を図ったり、配慮を要する児童への指導の共通理解をしたり、個に応じた指導を行う。（SC訪問時、校内支援委員会）
- ★ 地域学校園児童生徒指導強化連絡会において、不登校対策の話し合いやケース会議を実施す

る。(年2回)

(3) 健康(体力・保健・食育・安全)に関する取り組み

① 体力

(1) 運動量の確保・運動技能の向上を意図した体育授業の実践

- ・補助運動の工夫や遊具を活用した体力づくり
- ・発達段階に応じた運動教材資料の提示

(2) 運動の日常化の推進

- ・学習カード等を活用した各種運動検定の実施
- ☐ 各種運動検定に合わせた、各種運動特訓週間の実施

(3) 学校行事等を活用した体と心のたくましさの涵養

- ・運動会、ゆずっこウォーキング、持久走大会等で粘り強く取り組むことなど、体と心のたくましさの育成

(4) 投力や持久力などの体力向上

- ★「うつのみや元気っ子運動プログラム集」の継続した活用による、うつのみや版ミニマムの達成率向上
- ・うつのみや元気っ子チャレンジへの参加と記録会の実施
(6月: ドッジボール投げリレー・11月: ノーパンクボール投げリレー・1月: 長縄連続8の字跳び)
- ・ボールの投げ方、取り方の継続指導

② 保健

(1) 自ら健康管理に努める児童の育成

- ☐ 定期健康診断結果に基づき、疾病の早期治療と肥満や低視力の予防指導の実施
- ・正しい手洗いの方法や咳エチケットなど感染症予防指導の徹底

(2) 正しい姿勢の指導徹底

- ☐ 月に一度、正しい姿勢の指導週間の設定
- ・授業等での姿勢の継続指導

③ 食育

(1) 食事マナーの向上

- ☐ 上央小食事マナーチェックや給食マナー振り返りシートの活用

(2) バランスのよい食事についての意識向上

- ☐ 担任と栄養士とが連携したバランスのよい食事に関する指導の充実
- ☐ 食育だより等を利用した、家庭でのバランスのよい食事についての保護者への啓発

(3) 食文化の学習の推進

- ☐ 給食委員会や栄養士による旬の食材や郷土料理や行事食の紹介

④ 安全

(1) 登下校時の安全指導の徹底

- ☐ 道路横断時の左右確認や一列歩行の徹底
- ☐ 登校・下校時の個別指導の実施
- ☐ 登校・下校時の全体指導（ボランティア，地域協議会の方からの定期的情報収集をしたうえで担当者による指導）
- ☐ 定期的な登校班による地区下校の実施（全学年同時に下校が可能な日は地区ごとに集まり，登校班での下校を実施する）
- ☐ 月に一度，教職員が交通指導立哨を行い登下校班へ指導を行う。

(2) 災害や不審者に対する避難訓練の実施

- ☐ 災害や不審者に対する計画的な避難訓練の実施
 - ・ スクールガードチーフやスクールサポーターなどと連携した職員研修の実施
 - ・ 月 1 回施設・設備の安全点検を実施。環境整備を務める

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力（地域学校園内で共通するものは，文頭に○）

- ・ 地域と連携した活動の充実による郷土を愛する心の醸成
- ・ 自主的に考え行動する力や折れない心，粘り強くやり抜く心の育成
- ・ 思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度の育成

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

○地域の教育資源等の積極的活用

- ・ 食農体験【学校行事】，伝統行事（ぼうじぼ）【総合的な学習の時間】等における人材活用
- ・ 地域の自然とのふれあい活動（ゆずっこウォーキング【学校行事】，地域の公園等での体験活動【生活科】）

◇体験を振り返る活動や地域のよさを知る活動（作文等での表現活動【国語】，ふるさとカルタ取り大会【学校行事】）

○縦割り班「にこにこ班」の効果的活用

- ・ 学校行事における積極的活用（ゆずっこウォーキング，食農体験，運動会，1年生お迎えの会，6年生を送る会等）
- ・ 清掃活動における日常的活用

◇いじめゼロ集会での標語作成

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

地域の伝統・文化，自然，施設等を生かすとともに地域で働く人の生き方に触れる教育活動を充実させるため，地域協議会に学校運営に関する基本的な方針を説明し，意見を踏まえながら連携

- ・協働した取組を充実させる。

②主な取組

- ・伝統行事「ぼうじぼ作り」実施
- ・ゆずっこウォーキングの安全確保に係る支援
- ・田植え・稲刈り等の食農体験に係る支援
- ・持久走大会に係る支援
- ・「親学」に係る連携・協働

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

地域学校園において、学力向上や特別支援教育が喫緊の課題であることから、部会を中心とした組織体制を構築し、指導の連続性・系統性を図った取組を一層充実させる。

②主な取組

- ・学力向上部会など各部会での取組推進
- ・「学力向上アクション6プラン」に基づく小中一貫教育カリキュラムの一層の充実
- ・各種学力調査の分析等に基づく各教科の課題の見直し及び共通実践の推進
- ・うつのみやマネジメントシステム「全体アンケート」に基づく地域学校園内の共通実践推進
- ・不登校やスマホ使用の現状等に係る情報交換及び各小中学校での指導事項検討

(3) 不登校対策

①基本的考え

温かい雰囲気の学級づくりを基盤とし、不登校の兆しが見られる児童の情報を共有しながら早期より組織的に対応する。また、児童の状況に合わせて別室登校支援を積極的に行う。

②主な取組

- ・あいさつ、称賛、励まし等の言葉かけやどの児童も温かい雰囲気で受け入れる子どもに寄り添った学級経営
- ・校内ケース会議の迅速な開催とチームによる支援体制の構築
- ・校内別室登校支援充実（副校長・担任・養護教諭を核とする担当者、場所、支援計画の明確化）
- ・保護者の心情を踏まえ目標を共有した積極的支援

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

教育活動全体で1人1台端末を有効に活用するとともに、自律した情報の使い手となるための教育を推進する。

②主な取組

- ・1人1台端末を文具の一つとして授業はもとより、家庭学習等で日常的に活用できるようにする。

(5) 宇都宮学

①基本的考え

「宇都宮学」の学習を通して、児童が郷土への愛情と誇りをもてるよう指導の充実を図る。

②主な取組

- ・ 伝統を継承する人の生き方に触れる体験的な活動
- ・ 郷土の歴史、文化、伝統、産業、風土等について理解する学習